

グローバル人材育成プログラム に参加して

鈴木 雄大
Yudai SUZUKI

環境ソリューション工学科 3年

1. このプログラムに参加した目的

僕がこのプログラムに参加した目的は、アメリカでネイティブの方と接することで英語力を向上させることと、実際に短期間ではあるがアメリカで生活することで現地の文化を学ぶこと、また海外から日本を見てみることで日本の良さや逆に良くないことに気付ければいいと思い、参加した。また、「グローバル人材」という言葉を近年よく耳にするが、「グローバル人材」とはどういう人材のことなのかを知れるきっかけとするためにプログラムに参加した。

2. プログラム日程

以下にこのプログラムの大まかなスケジュールを示した。

表1 スケジュール

8月22日	サンフランシスコ着 サンフランシスコツアー
23日	シリコンバレー IT 企業見学ツアー
24日	シリコンバレー IT 企業見学ツアー スタンフォード大学見学 グローバルキャリアセミナー
25日	シリコンバレー IT 企業見学ツアー ホストファミリーや学生との BBQ, 交流
8月25日～ 9月10日	ホームステイ 現地企業での研修(平日) 自由行動(土日祝日) サンフランシスコ空港にて解散
10日	成田空港着

上のスケジュールで約20日間、現地でプログラムを行った。ツアーではフィッシャーマンズワー

フ、ゴールデンゲートブリッジ、ツインピークス山頂を観光した。企業見学では Apple, Google, Facebook, Intel などの超有名企業を訪問したり、SAP というドイツの有名な IT 企業のシリコンバレー社で働く日本人の方にデザインシンキングについての話を聞いたり、hero city という企業家たちのレンタルオフィスで働く日本人の方にアメリカでの起業家の価値観や考え方について話を伺った。グローバルキャリアセミナーでは海外で活躍されている2人のビジネスパーソンとの体験談や成功論など、とても貴重な講演を聞いた。

3. ツアーや企業見学を通じて学んだこと

プログラムを通してカリフォルニアの気候は毎日快晴で気温も25～28度くらいで乾燥した温暖な気候だったが、紫外線が日本より強くて、肌がとてもヒリヒリした。

企業訪問ではどこの企業もとても大きな企業なのでとても給料がいいらしく、また会社にジムがあって専属のトレーナーがいたり、会社のレストランやバーで社員は無料でランチできたりコーヒープレイクができるなどとても整った環境でのびのびと働いていることが分かった。会社側もいかにストレスフリーで働いてもらえるかに気を使っていた。

様々な方のお話を聞いて思ったことは、アメリカは一人一人がとても意欲的で、失敗を恐れずに何でも挑戦してみるということ。日本だと失敗を非難して失敗しないことが評価につながるが、アメリカは挑戦することがとても評価され、失敗も挑戦もしない人はやる気がないかまたはバカだと思われるようだ。その価値観もあり、アメリカは新しいものが生まれやすくなっていて、どんどんと失敗も吸収して変化していったと感じた。対して日本は、とても整然としているけれどどこか窮屈で変化を恐れているように感じた。

4. ホームステイ，企業研修を通して学んだこと

僕のホームステイ先はベトナム人の夫婦とペットの犬が4匹いる家庭だった。サンノゼにある住宅街で、庭に大型テレビやプールやバーカウンターなどがある大きな家だった。ベトナム人ということもあり、ベトナム料理をたくさん食べさせてもらった。また、2人とも英語が第2言語なので、訛りや癖があまりなく、聞き取りやすかった。しかし、僕の話す英語は発音がでたらめらしく、自信のあるワードやフレーズでも伝わらないことが何度もあった。

研修先の企業は San Jose's Japanese Friendship Garden という日本庭園で、サンノゼと岡山の友好を象徴する庭園だそうだ。そこで働く人たちはみんなとてもフレンドリーで仕事でも楽しく冗談を言い合ったりあまり話せない僕にもはっきりゆっくりと話してくれた。そこでは庭園の草取りや枯れ葉集めなどの整備をしたり、受付やサービスセンターなどがあるオフィスでパンフレットの翻訳作業を行ったりもした。2週間ほどで、あいさつ程度の会話は自然と交わせるようになったし、ある程度の話法や節で区切られた文章も少しずつ話せるようになってきたし、相手の話してることも4割くらい理解できるようになってとても楽しかった。2週目以降はサンノゼの市役所に連れて行ってもらい、そこで働いている日本人の方とサンノゼ市内の公園の工事の視察や安全のチェックを見学させてもらった。サンノゼ市役所では公園を通じて全ての市民に健康な生活を送れることを目標としていた。

5. 今後の課題，グローバル人材とは

今後の課題として、まず英語力の向上があげられる。少しづつコミュニケーションが取れてきたとはいえ、まだまだ日常会話には程遠く、伝えたいのに伝わらなかったり、せっかく面白い人と出会っても何を言っているのかわからなくて悔しい思いもたくさんした。彼らのような人たちと出会う機会があったときにもっと深い内容の話ができるようになっていたいと強く思った。

プログラムを経て「グローバル人材」とは何か考えた時に、外国語が話せることは勿論だが、様々な価値観や主張を持つ人間と心を交わすコミュニケーション能力や余裕を持ち、かつ自分の中にブレない信念を持った人のことではないかなと思った。揺るがない自分が胸の内にいるからこそ違う意見、価値観にも柔軟になれるのだと思った。このような理想の「グローバル人材」に近づけるように今後の学生生活を過ごしていきたい。



記念写真